

高岡教区教務所 電話 0766-22-0887 FAX0766-21-5152  
メール info@takaoka-hongwanji.jp

## ◇第二七回浄土真宗青年僧侶連絡協議会

### 全国大会開催

二月十八、十九日、オンライン開催にて第二七回浄土真宗青年僧侶連絡協議会（浄青僧）全国大会 from 高岡が開催された。『Living/Dying』生まれ往くいのちに』というテーマのもと、オンラインにて開催され全国から九団体、約百名の参加があった。今回、高岡教区以外はオンラインでの参加で、十八日は午後八時より映画『人生をしまう時間』が上映され、加盟団体の他、教区内のOBや協賛社など、百名を超える方が鑑賞をされた。この映画は患者と家族と向かい合い、最後の日々をともし過ごすという八十歳の医師と在宅医療チームに二百日間密着したドキュメンタリー映画であった。鑑賞された方からは、「改めて終末期医療について考えさせられた」「今一度自分自身を見つめなおす機会になった」等の感想があった。

十九日は午後一時から始まり、問題提起の後、『人生をしまう時間』の下村幸子監督と上田紀行東京工業大学教授の講演があった。問題提起ではビハーラ活動の参加経験や日常の法務活動に、終末期の苦悩に向き合う機会やその現場に僧侶が必要とされているか等について事前アンケートから報告された。

下村監督の講演では、これまでの自身の作品の紹介と共に、今回の映画を作るきっかけとなった医師との出会いやこれから亡くなる方を撮影する葛藤について、六十四ケースの取材から話をされた。その中から、自宅（在宅医療）の持つ不思議な力、特に自宅の匂いや視覚に対して終末期の患者に生きる力を与えていたと

言われた。また、宗教について「自分が弱った時にすがれる良さがある」と、医師との取材では「正しいやり方ではなくあり方」が必要であることから自分自身が問われていると話された。

上田先生の講演では、幼少期に母と二人で苦勞して暮らした話から、その母ががんで余命宣告を受け入院していく中で出会う一人の僧侶に、南無阿彌陀仏やお浄土の世界の話を聞いたこと、先生の母自身が「死んでから、みんなに呼びかける存在となっていく」ことに納得をしたことを述べられた。そして先生自身が語ってきた「宗教」というものの、まだまだ知らなかった奥深さやありがたさを再認識していく中で、「阿彌陀さまの力が、まさにこの部屋の中に働いている。そしてこの場にもうお浄土が垣間見えている。まさにここが浄土なんじゃないだろうか」という思いに至ったことを言われた。

講演終了後、質疑応答が行われ大会は終了した。次年度は本願寺にて本山総参拝が行われる予定。



## ◇ビハーラ研修会が開催される

二月二十四日午後一時半より、今年度のビハーラ研修会が公開講座で開催され、会員を含む約三十名が参加された。「感染症と差別」で川上組本福寺住職の栗山宣雄さんが講演をされた。栗山さんの講演は①コロナ感染症について②コロナ禍における差別を考える③生老病死の真実を生き抜くという三点について話をされた。

①ではウイルスの説明や生物の歴史の話から人間の体内は三九種類のウイルスを保有しているという論文を紹介し、病原体としてのウイルスは「ごくわずかでウイルスⅡ病原体という考え方自身は現在の科学では非常識と説明した。またPCR検査について「感染の診断に使ってはならない」という開発者の声や国立感染症研究所の声を紹介した。さらに主要メディアに出ていない（出られない？）医師やノーベル賞博士の声から「誰もが自分の頭で考えず、テレビや新聞を鵜呑みにして、不安や恐れから感染者（陽性者）や医療関係者を差別、攻撃する社会になっていく、これが最も怖いことである」と述べられた。

②ではコロナ差別の実例やムラ社会と同調圧力（ある特定のグ



ループにおいて意思決定、合意形成を行う際に少数意見者に対して暗黙のうちに多数意見に合わせるように誘導すること）について言われ世間や社会の価値観を自分の価値観としているのではないかという疑問を投げかけた。

③では、コロナ以前に信じていた幸せの価値観（健康、経済、生きがい）や自分の「いのち」と向き合い自らの人生を問い続けているいなかったのでは？という二点を問い直していかなければならないのではと言われた。そして南砺市民病院のビハーラ活動の問題提起から、ある医師の言葉「あらゆる病を克服し、人々を助けて寿命が延びたけど助けた方々は幸せになっていない。年をとればとるほど不幸になる」という言葉を紹介し、生老病死をどう越えていくのか問われていると言われた。

その後対談形式の意見交換を行って講演の話をさらに深めて終了した。

## ◇仏壮ボウリング大会開催

去る二月二十一日（日）、毎年恒例の高岡教区仏教壮年会連盟ボウリング大会が高岡スカイボウルにおいて開催され、五単位仏壮より八チームが参加した。参加者は、仏教壮年会連盟会員はもちろん、年齢、性別も様々な方にご参加いただいた。

基本的に一チーム四名、二ゲームの合計点数で順位を争った。結果については、一位関野組光慶寺仏壮チーム、二位糸岡組願称寺仏壮Aチーム、三位糸岡組願称寺仏壮Bチーム、ブービー賞が五位組光明寺仏壮Aチームであった。

来年も高岡教区仏教壮年会において、ボウリング大会を行う予定である。

## ▼二〇二〇年度ブロック別門徒総代研修会中止について

本年度、ブロック別門徒総代研修会は、新型コロナウイルス感染症防止のため、開催を中止いたします。

## ◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

### 第二回中央委員会を終えて「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会報告

去る二月十日、中央委員会が行われました。今回はコロナ過でリモート開催となりました。

初めに報告事項として宇野部長より実践運動・重点プロジェクト（以下重プロ）の現状についての報告。次に「子どもたちの笑顔のために募金」の支援先についての説明がありました。

実践運動の現状ですが、重プロ達成目標が直属寺院、教区、組になるにつれ下がっていました。この達成率の差はコロナ過における影響が大だと分析。次に子どもたちの笑顔のために募金の現状報告があり、募金の現状については、第一期（二〇一八年八月～二〇二十年一月末）は募金件数八百七十三件で合計額二千百万八九四一円、第二期（二〇二〇年二月～二〇二一年一月末）で募金件数八百七十件で合計額二千二百四万五九五二円との報告がされました。

第一期に比べ、二期は若干上回った事を評価。これは本願寺新報に募金の記事を見た個人の募金が増えたと分析。更なる募金の充実のために教区、組における重点プロジェクトに活躍を求められました。

このあと、協議事項として重点プロジェクトの取り組みについて、教区から提出された意見具申について話し合いがされました。今回高岡教区から提出した意見具申では①『子どもたちの笑顔のための募金』が全教团的な取り組みになっていない現状を分析し今後の取り組みの見直しを図ることを求める②「意見具申の内容を宗報等で公開し、全教区、組、寺院に周知することを求める」の二点を具申いたしました。

総局の意見具申に対する回答は、①については募金件数や募金額の数字から見れば明らかに厳しい状況であることを認めつつも、周知が十分でないことをその要因に挙げ、全教区を挙げてより周知徹底を図るというものでした。また②の「宗報」への意見具申の掲載はしないと回答。その理由は掲載義務が宗則に明記されていないからというものでした。

子どもたちのために募金を募ること自体は間違いではないと思います。ただ、その目的が見えにくく、募金額を伸ばすための募金になっている

ように感じました。一般寺院における募金の周知を更に推し進めるといふ総局の回答がありました。私は一般寺院において募金はすでに十分に周知されていると思います。ただ、一任職があつた募金箱をどのような思いでお御堂に置いたのか、そのことについて組、教区で話し合いや共通理解ができていたでしょうか。募金を推し進めるより、まず何故、子どもたちの笑顔が消えたのか、その原因を共通の課題とするべきだと思います。

意見具申を宗報に載せるのは課題を共有するためなのですが、他教区の声があがらない事も問題だと思えます。今回も意見具申が二教区からしか出ていません。提出した意見具申では、災害時の義援金との集まりの違いを取り上げました。この差こそ実践運動が私の課題となつていない現れだと思えます。そしてこの意見具申が「宗報」に出ないかぎり、この課題は全僧侶に知られません。

募金活動が全教区の取り組みとなつていないまま各教区は意見を出さない。そして現状が変わらないまま重プロリーダーや組長に募金を奨励しても、事態は好転しないと思われまふ。

宗報に意見具申が載る、教団が抱える課題を教区、組、一般寺院、僧侶の課題とする。そして皆で意見を出しあい、話し合うことで各教区、組の苦悩、一般寺院、僧侶の悩みを共に担っていく。これにより募金の大切さが見えてくるのではないのでしょうか。

実践運動は差別をはじめとする現実の苦悩をなくすための運動です。この事を理解し、教団の課題を私の課題とするために意見具申が必要でふす。意見具申は糾弾ではありません。これを問題提起として、「話し合うこと」が必要だと思ひます。連研を通じて「門徒さんに「話し合い法座」を勧めておきながら、会議ではほとんど話し合いが無い。意見を出しても皆が共有できない。これが同朋教団として正しい姿なのでしょうか。中央委員会で活発な意見交換が必要でふす。門徒さんに話し合いを求めるより、私たち僧侶がまず話し合いをすること。これこそ実践運動の第一歩だと思ひました。

◇これからの日程（3/12～4/26）◇

3月	教区・財団行事	教化団体・組行事
12	教区常任委員会	
14	常例法座	
15		宗派仏婦総会打合せ web
16		布教団役員会
18	同朋養成者研修会	全国総代会臨時総会 web
19		仏婦執行部会
		特別法務員・雅楽講習会
		ヤスクニ問題専門委員会
23	教区委員会全体会	
24		連研のための研究会
25		仏婦常任委員会
26	財団理事会・評議員会	
29	定期教区会	
30		寺女現新合同役員会
31		教学研究室公開講座
4月		
6	組長会	
14	常例法座	
22		宗派仏教婦人会総連盟総会 web
26		教区仏教婦人会連盟総会

☆お知らせ☆

「法輪せんべい」販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（175袋）8,300円

・1組（10袋）500円

お申込み先は・・・高岡市東上関446 高岡教務所内  
（寺族青年会担当）

Tel.(050)5587-7708(代表)

Fax.(0766)21-5152

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前5:35～5:45  
□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎3/27（土）：晨 利信氏

（浄土真宗本願寺派社会部(災害対策担当)部長）

「宗門の災害対策対応について」

□3/28（日）：未 定

（富山教区）

◎4/3（土）：三宮 義信氏

（本願寺派布教使・滋賀県滋賀組正源寺 元住職）

「仏教とは」

◎4/10（土）：三宮 義信氏

（本願寺派布教使・滋賀県滋賀組正源寺 元住職）

「仏教の生活」

□4/11（日）：未 定

（高岡教区）

◎4/17（土）：三宮 義信氏

（本願寺派布教使・滋賀県滋賀組正源寺 元住職）

「私たちに欠けていること」

◎4/24（土）：三宮 義信氏

（本願寺派布教使・滋賀県滋賀組正源寺 元住職）

「今、私たちに大切なこと」

【西本願寺高岡会館4月の常例法座】

ご講師：未 定  
（未 定）

ご講題：『未 定』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。